

平成27年度 立山町社会福祉協議会事業報告

「地域の崩壊」「家族の崩壊」といわれる社会構造の変化は、地域内での人々の交わりや家族関係の希薄化を招き、孤独、孤立、虐待、いじめ、介護放棄など、ますますその深刻度を増してきています。このような状況の中で「家族」「地域」への着目度が一層強まっています。

当町においても、少子高齢・核家族化が顕著な状況で、一人ぐらし世帯・高齢者のみの世帯が増加し、中山間地域のみならず市街地と呼ばれる地域においても、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難な「限界集落」の如き様相を呈する状況が見受けられる地域もあります。

近年の社会保障制度改革は、需要の増加を抑制しながら、予防・自立に重点を置くことで、年金・介護・健康といった社会保険制度を将来にわたって持続可能なものとするとともに、家族を核とした地域での「皆で支え合う」「支え合いの循環」を将来の社会のひとつの姿として「団塊の世代」も含めた「地域への参加」が強く提唱されています。

安心して暮らすことの出来る地域社会の整備・実現・実践を掲げ平成22年12月に全国社会福祉協議会が策定した、「全社協福祉ビジョン2011の概要～ともに生きる豊かな福祉社会を目指して～」とする行動計画の実現に向けて今後一層、市町村社協における活動の具体化と、それによる社協活動の強化に取り組むことが求められています。

このような状況の中、地域の人びとが住み慣れたところで安心して生活することのできる福祉の町を目指し、第2次立山町地域福祉活動計画に基づき、「みんなが輝く共生のまちづくり」の推進に向け、当協議会の役割はますます重要なものとなり、地域福祉の拠点として高齢福祉、障害者福祉、児童福祉それぞれの分野において、事業を進めているところです。

当協議会においては、地域の福祉力の底上げを目指し、「ふれあい活動事業」に加え「ケアネット活動事業」を取り入れ、高齢者から子育てまで幅広く、互いに協力しながら住みよいまちづくりを進めて来ました。

また、地域の福祉力向上の一手段であるボランティア活動の推進を図るため、ボランティア掲示板を設置し、情報の発信に努めると共に、近年各地で発生する災害時、被災者にとって精神的・体力的に大きな支えとなる災害救援ボランティア事業の推進に努めました。

地域住民の活動拠点として、平成24年6月4日に元気交流ステーションに移転し、町民の多様な福祉ニーズを的確にとらえ、互いに自立し、関係機関との連携や協働を密にして、① 地域福祉活動推進 ② 在宅福祉サービスの推進 ③ 総合的な相談援助 ④ ボランティア活動の推進 ⑤ 福祉教育の推進 ⑥ 高齢者福祉事業の推進 ⑦ 日常生活自立支援事業の推進 ⑧ 出逢い応援事業、を事業目標に掲げ積極的に展開してきました。

なお、主な事業等の取組みについては、次のとおりです。

1. 法人運営事業・その他の事業

(1) 法人運営、役員活動事業

4月	理事会、評議員会	4月 1日	文書審議
5月	26年度会計監査	5月14日	元気交流ステーション
5月	理事会	5月21日	〃
5月	評議員会	5月26日	〃
8月	県指導監査	8月18日	〃

8月	理事会	8月28日	〃
12月	理事会	12月4日	〃
12月	評議員会	12月11日	〃
3月	理事会	3月17日	〃
3月	評議員会	3月24日	〃

(2) 共同募金活動、日赤事業、立山善意銀行事務、町遺族会事務

(3) 社会福祉協議会ホームページの改修（7月）、開設、運営
ページビュー数 5,780回（7月29日～3月31日）

2. 企画広報事業

平成27年度ボランティアまつり&福祉映画上映会に併せて、これまで福祉の推進に功績のあった方々と団体の表彰式を開催し、より多くの町民が福祉について考える機会とした。

立山町社会福祉協議会表彰 11月21日 立山町民会館 大ホール 社会福祉事業功労9組

3. 地域福祉推進事業

(1) 地域総合福祉推進事業（ふれあい型・ケアネット型）への助成、活動強化に努めた。

第1回	地区社協会長・事務局長会議	5月15日	元気交流ステーション
第2回	地区社協会長・事務局長会議	9月14日	〃
第3回	地区社協会長・事務局長会議	12月15日	〃
第4回	地区社協会長・事務局長会議	3月8日	〃

・ケアネット事業活動実績

H27年度：実施地区数	10地区	援助対象者	160名	活動参加者数	291名
		訪問等活動延べ回数	11,370回		
※H26年度：実施地区数	10地区	援助対象者	161名	活動参加者数	275名
		訪問等活動延べ回数	10,645回		

(2) ケアネットセンター運営事業

実施地区検討会・報告会等参加 14回

第1回 ケアネット活動者研修会 7月31日 元気交流ステーション

「ケアネットとは？ケアネット活動はなぜ必要なのか？」

講師：地区社協役員、社協職員

参加者62名

第2回 ケアネット活動者研修会 9月14日 元気交流ステーション

「ケアネット活動を進める上で～各立場で担う役割とは？～」

講師：金城大学 社会福祉学部 教授 内 慶瑞 氏 参加者63名

町内居宅介護支援事業所連絡会ケース検討会出席 4回

個別ケースの相談や会議への出席・開催 12回

(3) 福祉人材育成・支援事業

ふれあい活動員（福祉協力員）を58名配置し、サロン活動やケアネット活動への実施・協力を行った。

・第1回ふれあい活動員・ボランティアサポーター研修会 6月26日 元気交流ステーション

地域活動の意義や連携について、住民主体による地域福祉活動の充実を図る。

講義：「みんなでボランティアの種を蒔こう！花（支え合う心）を育てよう！」

講師：金城大学 社会福祉学部 教授 内 慶瑞 氏 参加者 24名

- ・第2回ボランティア・ふれあい活動員合同研修会 3月 1日 元気交流ステーション

講義：「笑う門には、ほんま福来たる～笑顔に出会う幸せ活動・活動の醍醐味を味わおう」

講師：社会福祉法人 小杉福社会 特別養護老人ホーム 太閤の杜

施設長 松浦 佳紀 氏 参加者 40名

- ・各地区のふれあいいきいきサロン運営者・協力者を対象に連絡研修会を行った。

第1回ふれあいいきいきサロンリーダー研修会 6月26日 元気交流ステーション

（内容は第1回ふれあい活動員・ボランティアサポーター研修会と同じ） 参加者 22名

第2回ふれあいいきいきサロンリーダー研修会 7月 7日 元気交流ステーション

「みらいぶくつろぎサロンの見学と情報交換」 講師 社協職員等 参加者 25名

- ・各地区の子育てサロン運営者・協力者を対象に連絡会を行った。

第1回子育てサロンリーダー連絡会 7月17日 元気交流ステーション

「各地区サロンでの活動の工夫や困りごと等の情報交換」 参加者 11名

第2回子育てサロンリーダー連絡会 9月25日 元気交流ステーション

「みらいぶキッズに参加～町の拠点（中央）の子育てサロンの役割と連携」 参加者 14名

(4) 住民参加型地域福祉事業

- ・地区社協を中心にふれあいいきいきサロンランチを開設し、高齢者の生きがいや社会参加意欲を高めた。

ふれあいいきいきサロンランチ 平成27年度：延べ482回 参加者延べ10,204名

※平成26年度：延べ451回 参加者延べ 8,941名

- ・地区社協単位で子育てサロンを開設し、主に未就所（園）児と家族を対象に、子育て期の不安解消や情報交換など子育て支援を行った。

子育てサロン 平成27年度：延べ77回 参加者延べ 2,146名

※平成26年度：延べ77回 参加者延べ 2,239名

(5) 地域福祉活動計画の推進

平成25年度～29年度の5ヵ年を計画期間とする地域福祉活動計画の推進委員会を設置し、事業の点検・評価を行う仕組みを検討した。

H27年度：事務局内検討会（月1回）

地域福祉活動計画推進委員会 12月 4日 元気交流ステーション

(6) ふれあい総合相談事業の実施

弁護士等の専門相談、民生委員児童委員による心配ごと相談等の一般相談を実施した。また、事務局職員が相談援助を随時行った。町広報や社協だより「そよかぜ」に相談センターの相談日を掲載し広報に努めた。

- ・心配ごと相談員及び職員を対象に研修会を開催した。

第1回 心配ごと相談員研修会 5月30日 元気交流ステーション

講義：「一緒にm o t t a i n a iをつなげよう」

講師：特定非営利活動法人 フードバンクとやま理事長 川口 明美 氏 参加者 12名

第2回心配ごと相談員研修会 9月14日 元気交流ステーション

(内容は第2回ケアネット活動者研修会と同じ)

参加者 10名

第3回心配ごと相談員研修会 1月20日 元気交流ステーション

参加者 9名

・相談件数 法律相談 44件 心配ごと相談 6件 職員対応相談 48件

4. 助成事業

社会福祉団体等6団体に活動費の助成を行った。

5. 在宅福祉サービス推進事業

(1) 家族介護者交流事業

在宅で要介護者の介護をされている方々を対象に、介護支援専門員や保健師等による介護相談、健康相談、介護者同士での情報交換を行った。

家族介護者の集い リバーリトリート雅楽俱

3回開催 6月25日、9月11日、11月10日

参加者 40名

(2) 高齢者外出支援サービスの実施

要介護認定を受けている高齢者の方で、在宅で日常的に車椅子を使用している方を対象に通院等の外出支援を行った。

登録者数 6名 利用延べ日数 55日 利用延べ回数64回

6. ボランティア活動事業

(1) ボランティアコーディネーター設置事業 ボランティアセンター相談件数 330件

(2) ボランティア活性化事業

ボランティアに関する情報を社協だより「そよかぜ」の紙面や町内5ヵ所に設置した掲示板で紹介した。また、ボランティアセンター運営委員を委嘱し、運営委員会を開催することで、事業運営の推進を図った。

(3) 調査研究事業

地域で予測される課題への対応を探るため、調査研究事業を実施した。「フードバンク活動」や「ケアネット活動」に関する研修会の実施や全国小地域サミットへ参加し、他県・他地区の取組みの把握を行った。

第1回「フードバンク活動に関する研修会」 5月30日 元気交流ステーション

(内容は第1回心配ごと相談員研修会と同じ)

参加者 11名

第2回「ケアネットセンター運営事業の第2回立山町ケアネット活動検討会への参加」

(内容は第2回ケアネット活動者研修会と同じ) 9月14日 元気交流ステーション

参加者 14名

第3回「全国小地域福祉活動サミット in 黒部への参加」

11月26、27日 黒部市宇奈月温泉

参加者 3名

(4) 養成研修事業 -①ボランティアリーダー研修会-

ボランティアリーダー・サポーター等の交流・育成を目的に研修会等を実施した。

第1回ボランティアリーダー・サポーター合同研修会 6月26日 元気交流ステーション

(内容は第1回ふれあい活動員・ボランティアサポーター研修会と同じ)

参加者 19名

第2回ボランティアリーダー・サポーター合同研修会 9月30日 元気交流ステーション
バルーンアート研修会

講師：立山町レクリエーション協会 レクコーディネーター 坂井 智香子 氏 参加者11名

第1回ボランティアリーダー・サポーター合同連絡会 10月18日 立山町民会館 参加者13名

第3回ボランティアリーダー・サポーター合同研修会 3月 1日 元気交流ステーション

(内容は第2回ボランティア・ふれあい活動員合同研修会と同じ) 参加者43名

(5) 養成研修事業 ー②社会参加促進サポーター養成講座ー

高齢者や障害者を支援するボランティアの養成を図るため、「心の支援・緊急時の対応・福祉用具の知識」というテーマで社会参加促進サポーター養成講座を開催した。

第1回 傾聴ボランティア養成講座 心の支援～基本～ 5月19日 元気交流ステーション

講師：富山傾聴ボランティアピアの会 小柴 春枝 氏 参加者11名

第2回 傾聴ボランティア養成講座 心の支援～応用～

6月26日 特別養護老人ホームふなはし荘 参加者 4名

第3回 救命救急を学ぶ 9月17日 元気交流ステーション

講師：日本赤十字社富山県支部 赤十字救急指導員

関 恵一 氏、荻生 喜美恵 氏 参加者12名

第4回 福祉用具を知る 10月 6日 富山県介護実習・普及センター 参加者11名

(6) ボランティアサポーター設置事業

ボランティアサポーターを10名配置し地域でのボランティア活動情報の提供等を行った。また、連絡会を開催し、情報交換や各地域でのニーズを持ち寄り検討した。その他、福祉人材育成の視点から、子どもボランティア体験学習会等への参加協力も行った。

第1回 ボランティアリーダー・サポーター合同研修会 6月26日 元気交流ステーション

(内容は第1回ふれあい活動員・ボランティアサポーター研修会と同じ) 参加者 6名

第1回 ボランティアサポーター連絡会 7月13日 元気交流ステーション 参加者 6名

第2回 ボランティアリーダー・サポーター合同研修会 9月30日 元気交流ステーション

(内容は第2回ボランティアリーダー・サポーター合同研修会と同じ) 参加者11名

第1回 ボランティアリーダー・サポーター合同連絡会 10月18日 立山町民会館

参加者 4名

第3回 ボランティアリーダー・サポーター合同研修会 3月 1日 元気交流ステーション

(内容は第2回ボランティア・ふれあい活動員合同研修会と同じ) 参加者 8名

(7) 広報啓発事業

ボランティア活動の啓発・推進を図るため、ボランティアまつり&福祉映画上映会をボランティア連絡協議会と共同で開催した。ボランティア団体の紹介・活動披露・福祉施設物品販売・ボランティア体験コーナー等の設置を行った。また、善意銀行の協力で映画を上映した。

11月21日 立山町民会館 参加者 350名

(8) 児童・生徒のボランティア活動普及事業

推進校10校(小学校8校、中学校1校、高校1校)に活動費助成を行った。

(9) 福祉教育地域指定推進事業

地域の課題を探してみよう～地域でできるボランティアと情報収集(調査)の取組み～というテ

ーマに基づき、ボランティア団体や高校・放課後児童クラブと連携し、町内の小学生を対象に子どもボランティア体験学習会を実施した。また、保育関係者・教育関係者・放課後児童クラブ指導員・ボランティアを対象に福祉教育推進セミナーを開催した。

・子どもボランティア体験学習会

第1回 街中ウォークラリー (町レクリエーション協会主催：出会い応援事業のイベントへ参加)

6月 6日 立山町民会館ほか 参加者 8名

第2回 外来種駆除ボランティア体験 7月27日 称名滝周辺

講師:立山りんどう会会員 参加者14名

第3回 みらいぶくつろぎサロン夏まつりイベントの運営ボランティア体験

8月 5日 元気交流ステーション 参加者19名

第4回 工場見学・環境ボランティア活動を学ぶ 8月20日 立山製紙(株)

講師:しいの実グループ会員 参加者17名

・福祉教育推進セミナー

第1回 福祉教育推進セミナー 6月10日 元気交流ステーション

テーマ:「みんなで福祉の種を蒔こうー本当の福祉を考えた土壌の上にてー」

講義:「やさしさとはなんだろう?」

講師:住民流福祉総合研究所 代表 木原 孝久 氏 参加者14名

第2回 福祉教育推進セミナー 2月19日 元気交流ステーション

報告:立山町赤十字奉仕団・利田小学校・立山町ボランティアセンター

講義:「地域の課題を探してみよう!!地域でできるボランティアと情報収集(調査)の取組み」

講師:学校法人 富山国際学園 富山国際大学 子ども育成学部

教授 村上 満 氏

参加者39名

(10) 災害救援ボランティア活動支援事業

災害時の避難所を運営する際の課題や要点について講師による講義や演習(避難所運営ゲーム)を通して理解を深めた。 3月 9日 元気交流ステーション

講義:「地域と災害 ～地域が支える・地域を支える～」

演習:避難所運営ゲーム(HUG)

講師:特定非営利活動法人 いがた災害ボランティアネットワーク

事務局長 李 仁鉄 氏

参加者29名

7. 居宅介護支援事業

ケアマネジャーによる適切なケアプランの作成、介護給付費の管理

要介護1～5 月平均利用者数 128名

介護予防 月平均利用者数 23名

8. 居宅介護等事業(ホームヘルプサービス)

(1) 要介護認定者への訪問介護 要介護1～5 利用時間 2,420時間 月平均利用者34名

要支援1～2 利用時間 1,977時間 月平均利用者27名

(2) 障害者への訪問介護 身体障害者 利用時間 347.5時間 月平均利用者36名

	知的障害者	利用時間	258.5時間	月平均利用者	22名
	精神障害者	利用時間	309.5時間	月平均利用者	28名
(3) 生活管理指導員派遣事業		利用時間	103時間	月平均利用者	2名
(4) 自立支援サービス		利用時間	30時間	月平均利用者	2名
(5) 実習生受け入れ	1名 富山医療福祉専門学校			6月22日～26日	

9. 日常生活自立支援事業

自分ひとりで契約などの判断をすることが不安な方やお金の管理に困っている方などを対象に本人や関係機関の相談に専門員が応じた。

判断能力等の低下により本事業の利用が適している方とは契約し、金銭管理等のため生活支援員が訪問し、援助を行った。

利用者 5名 生活支援員登録者 6名 制度利用等相談件数 27件

10. 高齢者福祉推進事業

(1) みらいぶくつろぎサロン運営事業

元気交流ステーションに集約されている保健福祉総合機能を活かした誰もが集える常設型のサロンとして、引きこもりの防止や介護予防に関する活動を取り入れたメニューの提案、健康器具等の設置、教養講話やボランティアグループ等の活動披露、季節行事等を通して、積極的な社会参加、仲間づくり、生きがいづくり、健康づくりの一助となる機会を提供した。

元気交流ステーション2階大広間 サロン開催日数 225日

ボランティアグループ活動披露数 102回

季節の行事 5回 (1周年記念イベント・夏祭り・感謝祭・おひな祭り・茶会)

延べ利用者数 4,762名

(2) 福祉バスを運行し老人クラブの送迎及び福祉団体、地区社会福祉協議会等の諸行事の送迎を行った。

運行回数 延べ 263回 (老人クラブ送迎運行回数 117回)

利用者数 延べ 4,064名

11. 基金運営事業

(1) 社会福祉事業振興基金の管理、運営

(2) ボランティア基金の管理、運営

12. 共同募金配分事業

(1) 社会福祉協議会だより「そよかぜ」の発行 年6回 全世帯配布

(2) 福祉育成・援助活動など諸事業の支援

・ふれあいいいきいきサロンランチ活性化事業

高齢者ふれあいいいきいきサロン、子育てサロン等に対して講師の派遣を行った。

講師：ハートビートライフ・オカ インストラクター、大谷矢 辰則 氏、小柴 春枝 氏

延べ39回派遣 参加者延べ 717名

・住民支え合いマップづくり事業

住民同士のふれあいや支え合い活動を地図上に可視化することで、地域住民の支え合いの実情や生活上の問題を具体的に把握し、共助の仕組みを検討した。

住民支え合いマップ入門セミナー	6月10日	下段公民館	参加者39名
	9月5日	岩嶺公民館	参加者18名
	9月5日	高野公民館	参加者29名
	11月6日	谷口公民館	参加者23名

講義・実習：「新・支え合いマップづくり入門」

講師：住民流福祉総合研究所 代表 木原 孝久 氏

住民支え合いマップ実践セミナー	11月7日	岩嶺公民館	参加者18名
		高野公民館	参加者29名

実践：「ご近所パワーで助け合い起こし」

講師：住民流福祉総合研究所 代表 木原 孝久 氏

・地域歳末たすけあい助成事業

12月に全地区社協に助成金を配分した。高齢者宅への慰問、三世代交流やクリスマス会等の行事が実施された。

・ボランティア活用啓発事業

ボランティアグループの紹介パネルを作成し、イベント等で展示を行い、ボランティア活動の啓発を行った。

1.3. 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

低所得者等へ生活福祉資金等の貸付・相談を行った。

取扱件数 7件 制度利用相談件数 11件 継続相談件数 延べ155件

(2) 生活困窮者自立促進支援事業

富山県東部生活自立支援センター（魚津市）と連携して、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者（生活困窮者）に対し支援を行った。

町報や社協だより「そよかぜ」に相談日を掲載し広報に努めた。

中部厚生センター管内支援調整会議出席 6回

相談件数 4件 継続相談件数 延べ94件

1.4. 出逢い応援事業

サポートセンター「おむすびくらぶ」を設置し、結婚相談や情報交換を通して出逢いの場を提供し、結婚への支援を行った。

・センター運営体制

推進委員13名 支援員32名（プランナー10名・アドバイザー12名・サポーター10名）
センター長1名（社協事務局長兼任） コーディネーター1名（社協職員兼務）

登録会員87名（内訳：男性60名・女性27名：3月31日現在）

※推進委員会の設置 円滑な運営と効果的な事業推進を図るために設置

立山町内で活躍する企業や団体、支援機関、学識経験者及びその他会長が必要と認めた者で組織し、立山町社会福祉協議会会長が委嘱する。

※支援員は、地域活動に参加している者で、結婚への支援及び地域の担い手育成に理解と関心を持ち、その役割遂行に支障のない者を、立山町社会福祉協議会会長が委嘱するものである。

・結婚相談日の開設

アドバイザーによる結婚相談を毎週木曜日午後・第1、3木曜日夜・第2、4土曜日午前に開設し、登録会員への結婚相談等に応じる。

元気交流ステーション相談室 相談件数 83件 マッチング41件

・推進委員会の開催 関係機関への広報啓発及びセンターへの指導助言

第1回推進委員会 9月 2日 元気交流ステーション 参加者10名

第2回推進委員会（報告） 3月23日 元気交流ステーション 参加者 8名

・支援員研修会及び情報交換会の開催 結婚支援に対する必要な研修（婚活支援について、情報セキュリティ、コミュニケーション等）を開催し、支援員の資質向上を図り、支援員間の情報共有の場を提供

第1回全体研修会 9月 2日 元気交流ステーション 参加者27名

第2回全体研修会 3月23日 元気交流ステーション 参加者20名

第1回支援員情報交換会 5月 1日 元気交流ステーション 参加者24名

第1回支援員研修会・第2回情報交換会 7月 1日 元気交流ステーション 参加者23名

第2回支援員研修会・第3回情報交換会 10月20日 元気交流ステーション 参加者20名

第4回支援員情報交換会 2月23日 元気交流ステーション 参加者26名

・登録会員対象の講座（セミナー）開催 結婚に対する意識を上げるため、全会員を対象とした子どもを持つことの気運醸成を図るための交流会や男性会員を対象にコミュニケーション研修会を開催

街中ウォークラリー（全会員対象・小学生も参加）

6月 6日 立山町民会館ほか 参加者25名

コミュニケーションスキルアップ講座（男性会員対象）

12月 6日 元気交流ステーション 参加者23名

・事業啓発イベントの開催

ボランティアまつり広報啓発コーナー設置 11月21日 立山町民会館 参加者 6名

アルプスエクスプレス号DEクリスマス 12月 6日 富山地方鉄道立山線ほか

参加者39名

町内10地区巡回相談・広報啓発コーナー設置

7月～11月 各地区行事にあわせて実施